

● 2014年（平成26年）7～9月

1 社会・治安情勢

(1) 7月5日、治安当局によれば国境付近の町ラムサの公共施設の外壁にシリアからの砲弾が着弾、付近に停車していたバスの一部が破損したが、負傷者等はなかった。

(2) 7月6日、マアーンの住民数十人が、同市のダウンタウンの主要道路を石で封鎖する等の抗議行動を行った。約10日前にシリアで戦闘に参加していたマアーン出身者が、シリアからヨルダンに不法に越境する際、銃撃を受け負傷し逮捕されたことに対する抗議。

(3) 7月10日及び11日、イスラエルによるガザ攻撃を非難する抗議活動がヨルダン全土で行われた。

(4) 7月17日及び18日、各地でイスラエルによるガザへの地上戦を非難する抗議行動が発生、参加者は、駐ヨルダン・イスラエル大使の国外追放、ガザ市民への殺戮行為の即時停止等を要求した。

(5) 8月19日未明、シリアからヨルダンへの密入国を企図した武装グループ2名とヨルダン軍の間で銃撃戦が発生し、ヨルダン軍が密入国者1名を殺害、1名を逮捕した（8月20日付ヨルダン・タイムズ紙）。

(6) ヨルダン軍の発表によれば、8月24日午後4時30分にシリア・ヨルダン国境から不法に装甲車両によりヨルダン側に越境しようとした侵入者とヨルダン軍との間で銃撃戦となり、侵入者2名が死亡し、2名が逮捕された。同装甲車両より機関銃7丁の他、多種類の弾薬が押収された（8月25日付当地各紙）。

(7) ヨルダン国内のISIL支持者の逮捕

ア ヨルダン治安当局は、8月24日朝から26日夜にかけてアンマン、イルビッド、ザルカ及びサルトにおいて強硬派サラフィスト50人を逮捕した。これらの被疑者らは、非合法的組織への所属及びテロ行為を画策した容疑で国家治安裁判所に送致される見通しである。

イ 当地のサラフィスト・ジハード運動幹部によれば、同逮捕は最近行われたISILへの支持を表明する行進に被疑者らが参加したことが理由とみられている。

ウ ISILとの関連で治安当局により逮捕された関係者は本年8月だけで70人に上る。（8月28日付当地各紙）

(8) ヨルダン国内のISIL支持者の逮捕

ア 9月9日、ヨルダン治安当局は「特殊部隊がアンマン東部のジャバル・ジョウフ地区にある不審な家屋において6名のISIL支持者を逮捕した。」と述

べた。治安当局関係者によれば、警察は6名がISILへのリクルート活動や資金提供に関与しているとして、約1ヶ月に亘り監視下に置いていた。6名はテロの扇動行為及びテロ組織へのリクルート活動を行った容疑で起訴される予定である。

イ 被拘束者の弁護人は「彼らはヨルダンのサラフィストである。」と述べ、当地サラフィストの幹部は「彼らはISILを支持しているが、ISILとの直接の繋がりはなく、一般のヨルダン国民である。」と述べている。

ウ 当地のジハード運動の幹部によれば、約1,800人のヨルダン人がイラク及びシリアにおいてISILの下で活動している。また同幹部によれば、現在、ISIL及びヌスラ戦線への支持の容疑により当局により逮捕されているヨルダン人ジハーディストの数は60名以上であり、このうち8割がISIL支持者である。(9月10日付当地ガッド紙他)

#### (9) イルビッド及びタフィーレにおける騒擾事案

ア 9月12日夜、ヨルダン北部のイルビッド市のトルクマーン地区において、若者のギャング集団の間で衝突が発生し、若者らが商店等の放火や銃器・鈍器等による暴力行為に及んだため、治安当局は同地区の道路を封鎖し、催涙弾を使用して対処するとともに16名を逮捕した。5名(うち警察官2名)が負傷し、事態の沈静化に3時間以上要した。

イ 9月14日、ヨルダン南部のタフィーレ市において、失業を不満とした若者の集団が同市庁舎等のガラスを割り、またタイヤを燃やして幹線道路を封鎖する等の行為に及んだ。若者らはタフィーレ市長等に対して就職を斡旋するよう要求した。(9月14日及び15日付当地ガッド紙他)

## 2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

8月3日未明、アンマン市内のビル(レストラン・ニュー上海が入居しているビル、大使館から車で約5分)に複数の銃弾が撃ち込まれ、窓ガラス数枚が割れる発砲事案が発生した。

ヨルダン警察によれば、犯人は捕まっておらず、負傷者等は確認されていない。また、同ビル周辺はナイトクラブの酔っ払い客等が拳銃を発砲する事件が年に数件発生しており、特に深夜・早朝は注意が必要の由。

## 3 テロ・爆弾事件発生状況

なし。

## 4 誘拐・脅迫事件発生情報

なし。

5 日本企業の安全に関わる諸問題  
なし。

(了)